

事例13

さくら市氏家公民館・さくら市立各小・中学校

子ども絵画教室～夏休みの課題などに挑戦！～

連携の経緯



氏家公民館では、夏休みに子どもたちを対象とした体験活動の講座を実施するにあたって、生涯学習課に相談し、生涯学習課の主催する学校開放講座（学校の施設開放や教員の専門性を生かした講座）の講師で、専門的な知識と技術を持つ学校教員を紹介され、講座の講師を依頼することとなった。

その後、依頼された教員と公民館職員が講座の企画段階から一緒に考え、事業内容を決定していった。

連携事業の概要

この事業は、氏家公民館の主催事業「子ども絵画教室～夏休みの課題などに挑戦！～」において、市内の小学校教員に講師を依頼し実施された。事業の内容は、市内の小学生を対象に夏季休業中の3日間にわたって、絵画教室を開催するというものである。

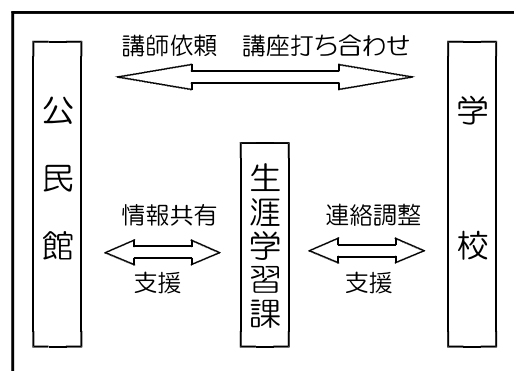
連携の形態

本事業は、生涯学習課で実施している学校開放講座の実績を基に、学校との連携が公民館などに広がったものである。学校開放講座は平成8年度から開始されており、市内の小中学校の教員に対して、主として成人を対象とする講座の開設を依頼し、年間3～5事業実施している。体操や絵画など実技が中心であり、会場も各学校で行っている。

学校との連携は、教育委員会事務局を通じて行う方が円滑に進むこともあり、公民館は生涯学習課と連絡を取り合い、情報を共有することによって、円滑な連携が可能となった。

連携の留意点

- 公民館は、学校との連携をスムーズに進めるために、講師となる教員の情報、教員が講座に参加しやすいような勤務対応、事務的な手続き方法などを知る必要がある。そこで、学校の実情に詳しい市の生涯学習課に勤務する社会教育主事の協力を得て、必要に応じた連絡調整を図ってもらったり助言をもらったりすることが必要である。
- 公民館は、学校の施設・設備や講座などに生かせる専門性をもった教員についての情報を収集する。また、それらの情報を得られる情報源をもつ。



さくら市氏家公民館

【施設データ】

所在地	さくら市桜野1822-8
電話	028-682-1611
設置年	昭和54年
対象地域人口	約30,000人
延床面積	3,015.68㎡
設置状況	単独
U R L	

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長(専任1) ・主事(専任2)
協議会等	さくら市公民館運営審議会
予算額	維持管理費： 22,376,000円 事業費： 1,004,000円

成 果

- 公民館が、地元の指導者の情報を共有することによって、公民館の事業内容が豊かなものとなり、住民ニーズにも対応できた。
- 小学校教員が講師を務めたため、子どもたちへの指導の仕方や接し方などの高い専門性によって、事業内容を充実させることができた。
- 教員が自分のもつ専門性を発揮する場を提供することができ、教員自身の学習成果を発揮する場となった。



さくら市の取り組み

さくら市では、学校と地域の連携を推進するために、各種の施策を推進している。今回の公民館事業での連携は、こうした施策の成果として位置づけられるものである。

①学校開放講座

この講座は、平成8年度にスタートし、学校教育の優れた教育力を広く市民に提供するために学校施設を開放し、教員が講師となって講座を行うものである。年間3～5回程度ではあるが、教員の意識啓発や社会教育に対する理解を深めるのに大きく貢献している。これまで、「高齢者向けパソコン講座」「すてきなカードづくり教室」「さかあがり教室」「親子リズム教室」「よさこいソーラン教室」「ダンベル体操」などが開設された。

②地域と学校を結ぶコーディネーター

この事業は、平成17年に、学社連携の具体的な内容や活動実践を行うことにより、地域の教育力の向上や開かれた学校づくりの支援を行うことを目的に設置された。教育委員会では、現在市内のボランティア17名にコーディネーター委嘱している。コーディネーターは、学校側との情報交換によるニーズの把握、地域の人材に関する情報の収集と提供、また、自らボランティアとして学習支援を行うなど、学校の求めに応じたコーディネートを行っている。生涯学習課の教員経験がある社会教育主事と共に、このような学社連携事業のコーディネーターとしての活動を行っている。

今後の課題としては、各学校に地域の人材に関する情報交換や具体的な学校のニーズ把握や相談など、総合的なコーディネートを担う組織をつくり、組織には、管理職、生涯学習担当教員、PTA、ボランティア、そして、公民館などの社会教育施設も参画し、教育委員会を経由しなくても、地元の学校と公民館が円滑に連携できるようになることが期待される。